

初の情報源としての役割は十分担える冊子になっていると思われた。患者さんと医療者の評価の差として患者さんでは「とても役にたつ」との評価、医療者では「まあ役にたつ」という評価の割合が高く、両者の差を認めた。医療者にとっては、既知の情報であるが患者さんにとっては初めての情報であることがこの差に表れているのではないかと思われた。記載内容に関しても患者さんの評価は詳しすぎるとの意見は少なく、ちょうどよいとの意見が大半であった。逆に医療者側からみると詳しすぎるとのではないかという割合が高くなっていたが、我々医療者が考えている以上に患者さんは自身の病気に対して勉強していることの表れではないかと推測される。

一般地域住民を対象としたアンケート結果でも「患者必携」の内容に関しては高評価を得ており、本冊子を利用したいとの意見が大半であった。この結果は多くの国民はがん情報を得たいと考えていることを表していると推測される。さらに身内にがん患者が有り・無しで群分けした検討において、無し群で本冊子に対する期待度が高い傾向にあったことは自身・近親者ががん患者が出来る以前からがんに対する知識を習得しておきたいという気持ちの表れと理解できる。本冊子は当初がんになった初期の患者さんをターゲットとして作成されたのもであるが、がん情報を得るための一般書としての役割も担える内容になっていると思われる。

有益ながん情報を提供出来る冊子をいかにがん患者・家族、さらには一般国民に周知するかが重要な課題となっている。がん患者・家族に周知する以前に医療従事者に本冊子の存在・内容を周知する必要があると思われ、院内メールや連携病院との協議会での紹介等を行ってきた。院内メールによる周知は簡便な方法であるが、全員がメールをチェックする体制に

ないことや興味のない内容は読まずに捨てられるために効果的な周知方法にはならなかった。院内講習会を開催し、「患者必携」がいかにがん患者さんや家族から期待されているかということ伝える必要がある。

がん患者さんが最初に体調不良を自覚し、受診するのは一般開業医である。したがって、一般開業医に「患者必携」を周知することががん患者・家族に「患者必携」のことを知らせ、さらにがん情報を収集する第一歩になるのではないかと思われる。一般開業医への周知の一環として連携病院との協議会の席で紹介したところ、参加施設の先生から概ね好意的な反応を得ることが出来た。しかし、その後の聞き取り調査では内容までチェックした医師は少数であった。既に冊子「がん患者必携」は各拠点病院に相当数配付されており、各拠点病院から連携医療機関へ配付も行われている。各地域医療機関の待合室に冊子を置くだけでなく、ポスター掲示等を行うことで患者さんの目に触れる機会が増えることが期待できる。

がん罹患率、全死亡に占めるがんの割合が高くなった現在、がん罹患前から一般市民にがん情報を発信することも重要な課題である。一般住民への周知を目的に地域の広報誌への掲載を行った。近隣住民の反応を調査した結果、広報誌に関しては多くの住民が目にしたことが分かった。しかし、本年度行ったアンケート調査では広報誌で本冊子を知ったと答えた者は1名のみであった。小さなコラムへの紹介であったので既に記憶になくなったものと推測される。掲載直後の反応が良かったことから、定期的に情報発信していくことが必要であると思われる。自由意見で病院に於ける講演を提唱する意見があり、今後は地域の行政とも連携してがん情報に関する医療講演会を開催するのも一計である。

## E. 結論

「患者必携」はがん患者・家族、医療従事者、さらには一般住民からも高い評価を得ており、広く国民に存在を周知すべき内容を有する冊子である。しかし、その周知状況は依然満足のものではない。マスメディア・インターネットを介した継続的な情報発信、地域医療機関・行政とタイアップした講演会の開催等を今後も地道に続ける必要がある。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1, 論文発表

1) 朝戸裕二、鏑木孝之、雨宮隆太。局所麻酔下胸腔鏡。日本気管食道科学会雑誌 2010:61(5):467-469

2) 藤原隆行、朝戸裕二、清嶋護之、佐藤始広、飯嶋達生、雨宮隆太。原発性肺癌に併発した多発性後縦隔骨髄脂肪腫の1例。肺癌 2011:51(3):207-211

3) 雨宮隆太、清嶋護之、鏑木孝之、朝戸裕二。所見のとらえ方と気管支鏡診断。気管支学 2011:33(4):284-289

### 2, 学会発表

1) 朝戸裕二、清嶋護之、鏑木孝之、橋本幾太、内海啓子、山口昭三郎、大久保梨紗、雨宮隆太。肺癌患者及び医療従事者におけるがん患者必携試作版の評価ならびに今後の展望。第51回日本肺癌学会総会。2010.11.3(3-4).広島

2) Yuji Asato, Moriyuki Kiyoshima, Motohiro Sato, Tatsuo Iijima, Ryuta Amemiya: Limited Resection for Lung Cancer Which Showed Gland Glass Appearance in Pre-operative HRCT. 14th World Conference on Lung Cancer. 2011.7.4. Amsterdam

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

図1、肺癌患者さんに於ける患者必携の評価

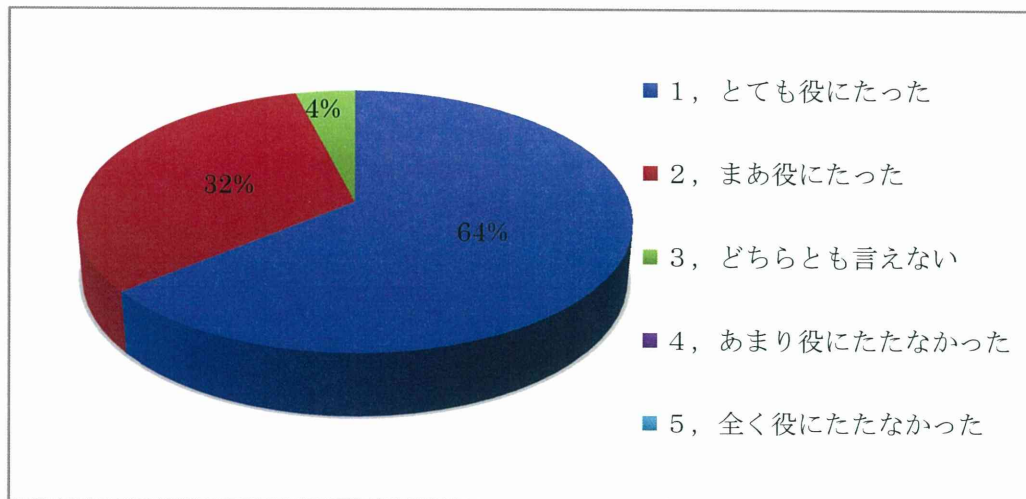


図2、肺癌患者さんに於ける患者必携内容の評価

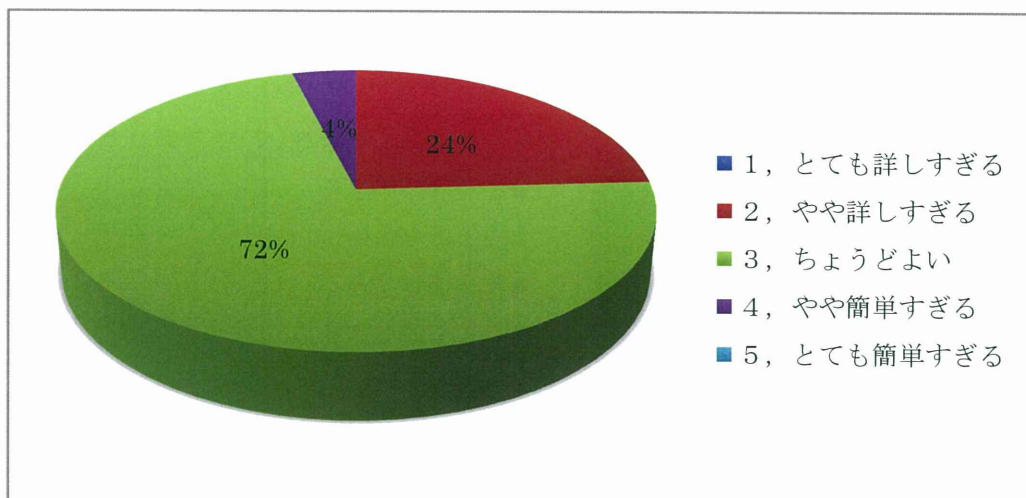


図3、医療関係者に於ける患者必携の評価

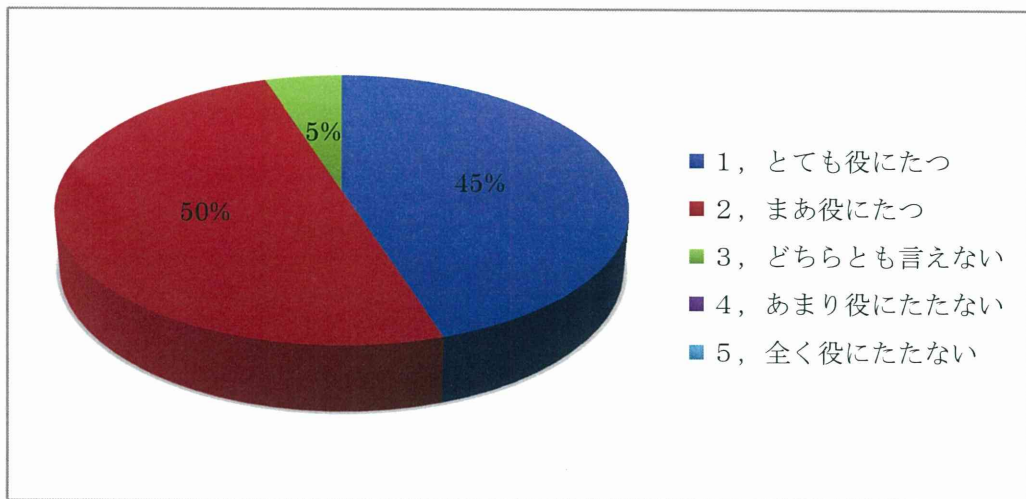


図4，医療関係者における患者必携内容の評価

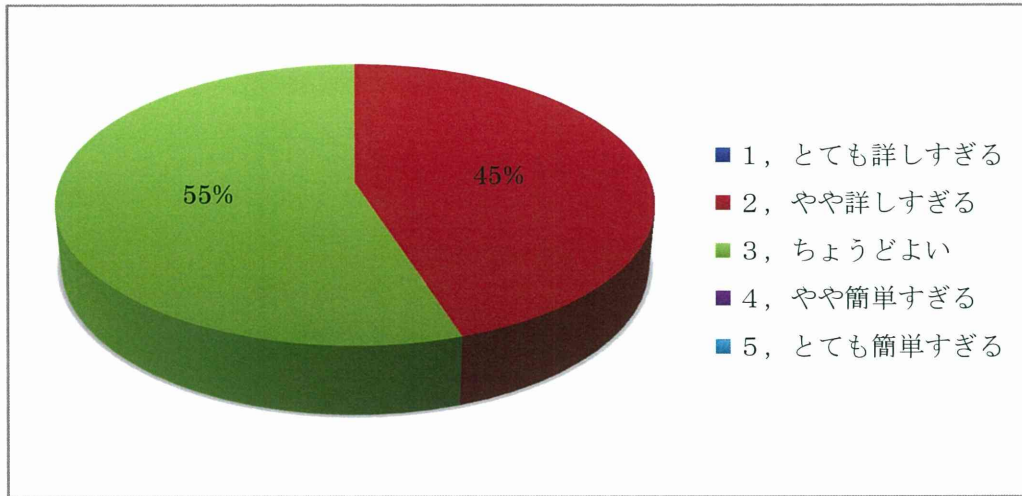


図5，一般住民に於ける患者必携内容の評価

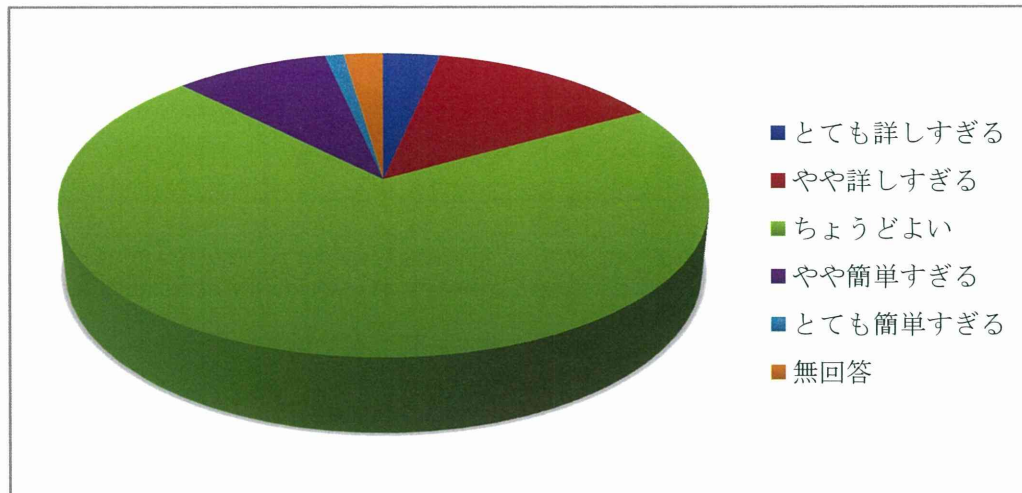


図6，地域住民に於ける患者必携の総合評価

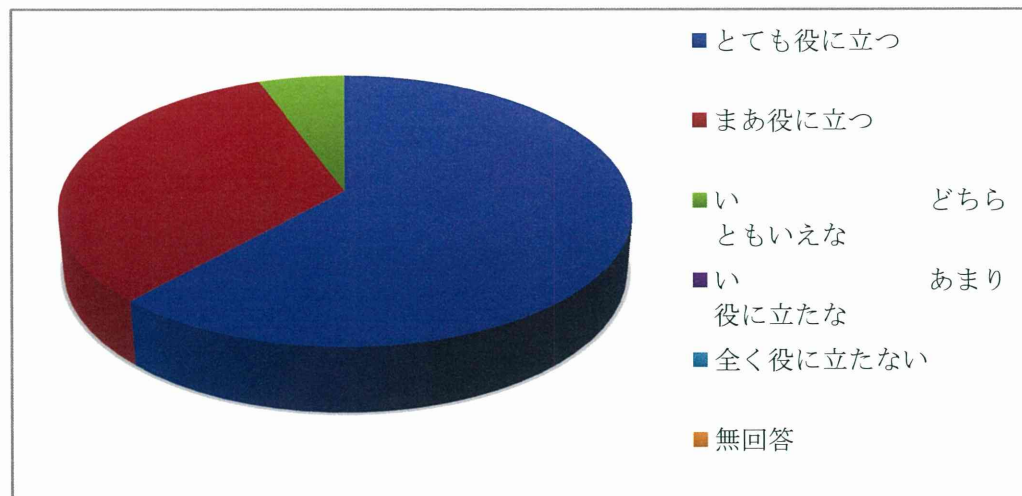




図7, 自分自身や家族ががんになったら使ってみたいか?

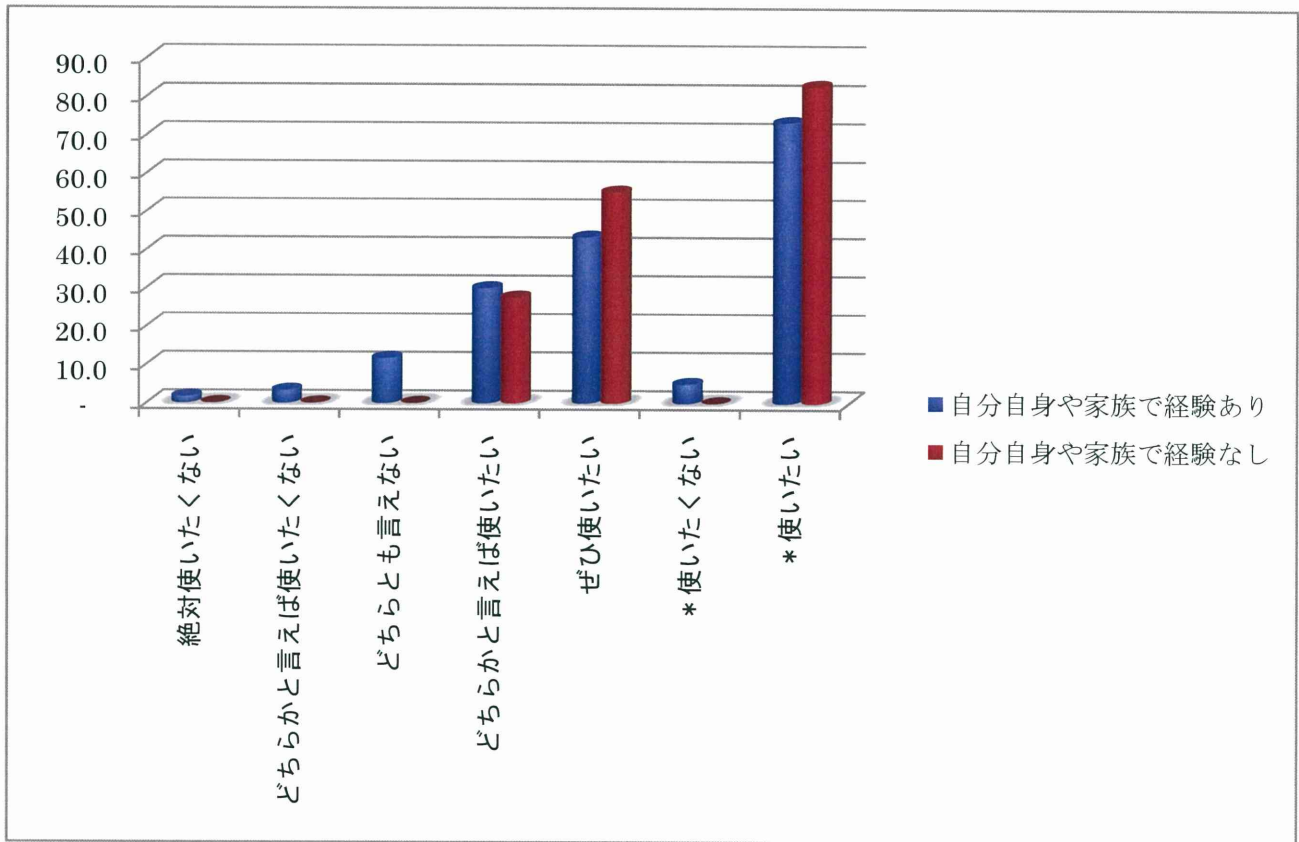


図8, ガイドの内容の評価

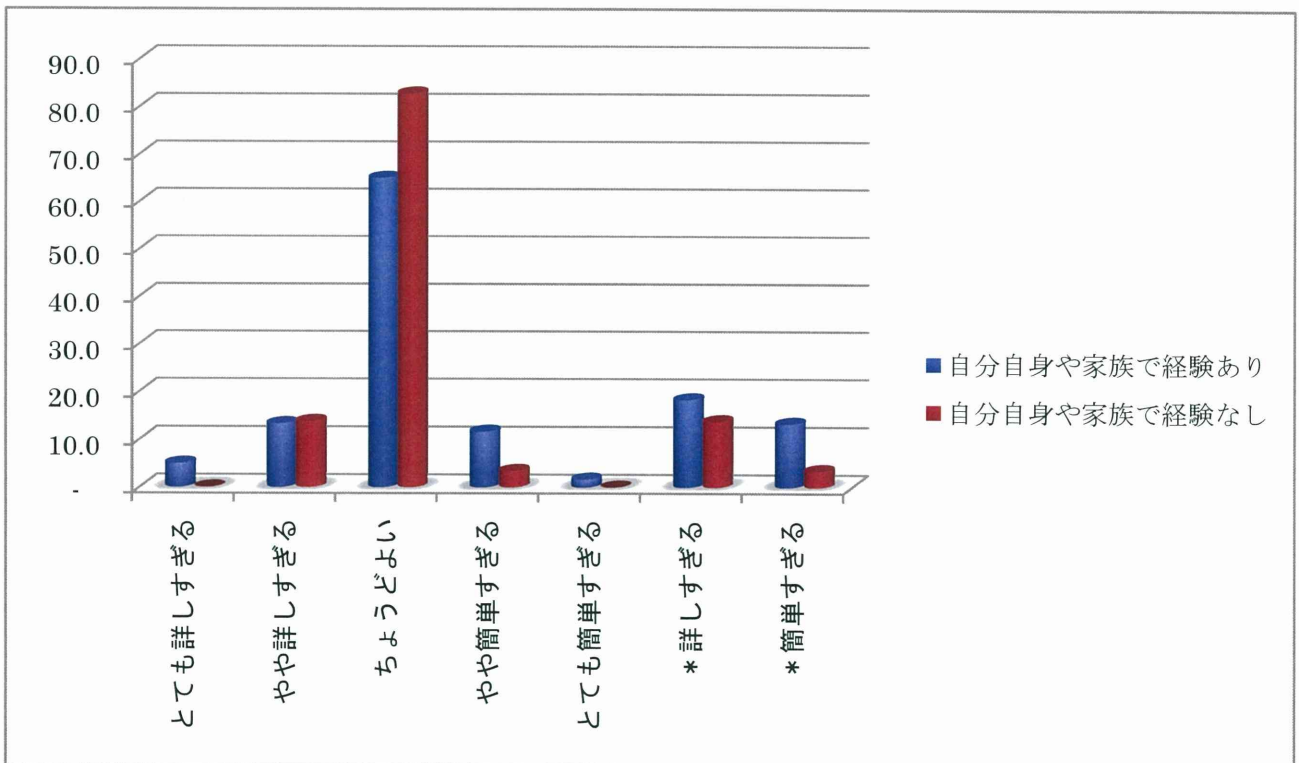
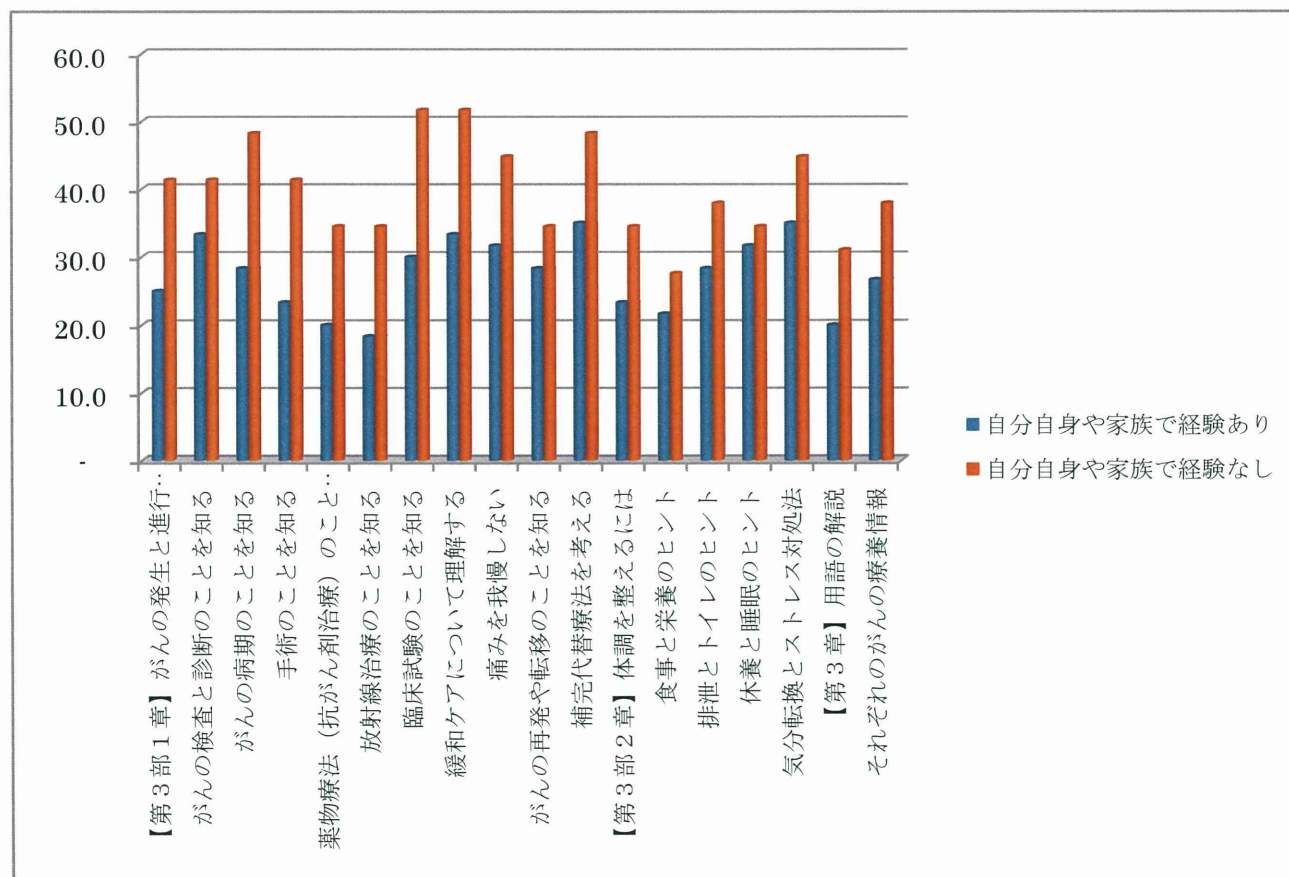
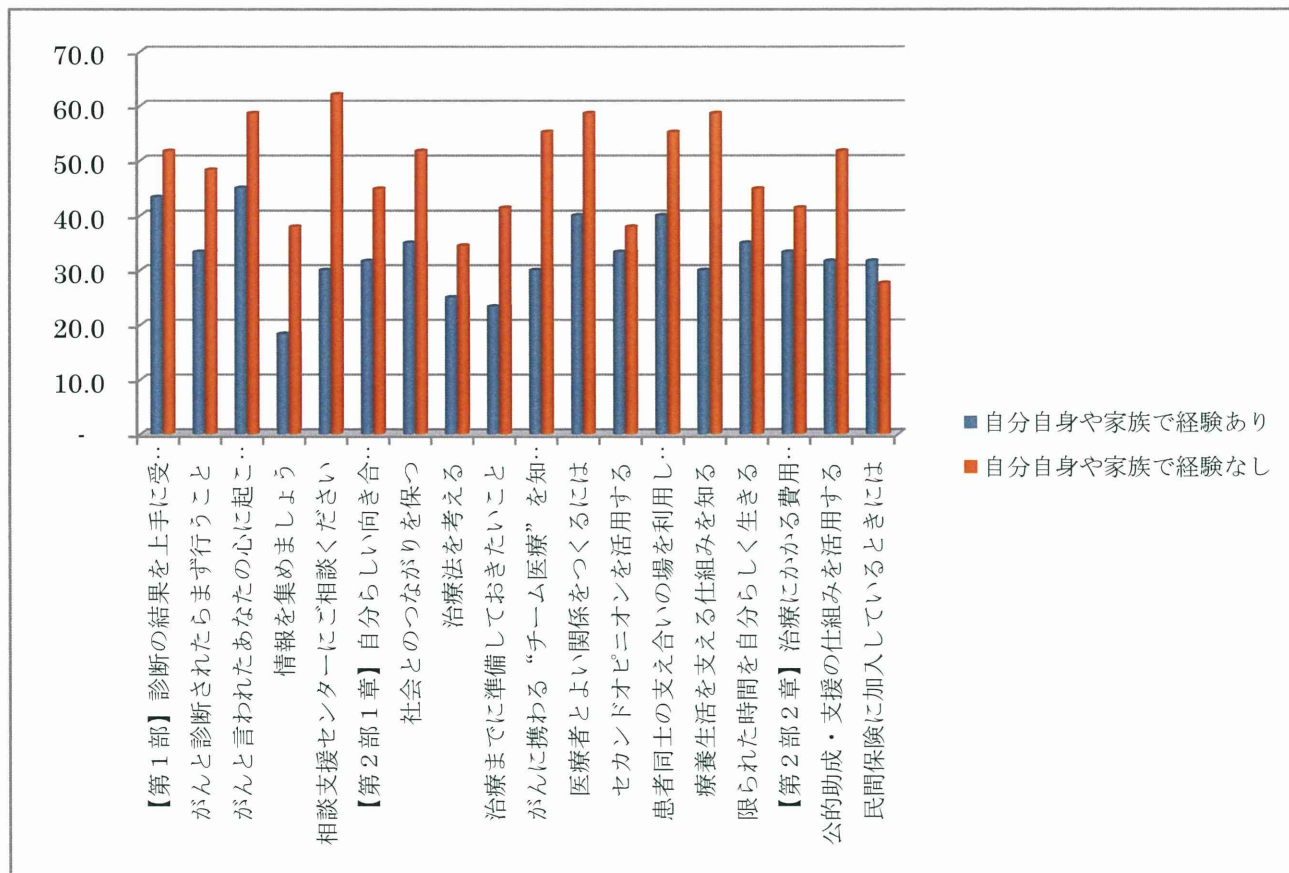


図9, 不安解消に役立つ項目



# 研究成果の刊行

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
谷水正人	がん診療連携拠点病院とは	井部俊子 開原成允 京極高宣 前沢政次	在宅医療辞典	中央法規出版	東京	2009	55
谷水正人	がん難民とは	井部俊子 開原成允 京極高宣 前沢政次	在宅医療辞典	中央法規出版	東京	2009	57
谷水正人 他	がん領域における地域連携パス導入のために	高橋慶一・監修 日本在宅医療学会・編	医師・看護師・薬剤師のための外来化学療法実践セミナーin横浜 2009	癌と化学療法社	東京	2009	80-86
谷水正人	がん診療における地域連携に必要な要件	岡田晋吾 谷水正人	パスでできるがん診療の地域連携と患者サポート	医学書院	東京	2009	5-7
谷水正人	がん診療における地域連携パス概説	岡田晋吾 谷水正人	パスでできるがん診療の地域連携と患者サポート	医学書院	東京	2009	41-44
武田文和 的場元弘			がんの痛みをとる！	日本医事新報社	東京	2009	
的場元弘 山本弘史 他			医療用麻薬適正使用ガイドダンス -がん疼痛における医療用麻薬の使用と管理のガイドダンス-	厚生労働省 医薬食品局 監視指導・麻薬対策課	東京	2009	
的場元弘 他	緩和医療最前線		JSA リフレッシュャーコース 2007	日本麻酔科学会 教育委員会 安全委員会編	東京	2009	43-54
的場元弘 他	がん薬物療法 専門医のために		新臨床腫瘍学 改訂第2版	日本臨床腫瘍学会	東京	2009	
谷水正人	5大がんの地域連携クリティカルパス開発の現況	武藤正樹	地域連携コーディネーター養成講座 地域連携クリティカルパスと退院支援	日本医学出版	東京	2010	17-24
高山智子、 若尾文彦、	(患者必携) もしも、がんが再発した	国立がん研究センター	(患者必携) もしも、がん	英治出版	東京	2012	

的場元弘、 他	ら本人と家族に伝 えたいこと	がん対策情 報センター	が再発したら 本人と家族に 伝えたいこと				
辻 晃仁、 森田 荘二 郎	消化器がん化学療 法マニュアル		消化器がん化 学療法マニユ アル	日総研出版	大阪	2012	
辻 晃仁	II. 副作用のマネジ メント(副作用と支 持療法) Q13. 副作 用のアセスメント		がん薬物療法 のマネジメン ト	総合医学社	東京	2012	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
渡邊清高	試作版が完成！がん「患者必携」 ～患者の求める情報を網羅した ガイドとは	がん患者ケア	3	1-6	2009
渡邊清高	海外留学生だより」豪州短期研修 記	GI Research	17	60-64	2009
渡邊清高	癌の疫学・早期発見の意義早期の 癌の画像診断	画像診断	29	962-968	2009
渡邊清高 土屋了介	医師後期臨床研修のあり方と病 院の役割特集今後の医師養成と 病院	病院	68	1010-1014	2009
Norihiro Teramoto, Masahito Tanimizu, Rieko Nishimura	Present situation of pTNM classifi- cation in Japan: Questionnaire sur- vey of the pathologists of Gan-shinryo-renkei-kyotenByoin (local core cancer hospitals) on pTNM classification	Pathology Inter- national	59	167-174	2009
谷水正人	緩和ケア病棟における地域との 連携	緩和ケア	19(5)	419-422	2009
松久哲章 谷水正人 他	がん化学療法における患者支援 ツールの開発 経口抗がん剤の 円滑な薬薬連携を目指して	日本クリニカル パス学会誌	11(2)	127-135	2009
Yomiya K, Matoba M,	Baclofen as an Adjuvant Analgesic for Cancer Pain.	American Journal of Hospice & Pal- liative Medicine	26(2)	112-118	2009
吉本鉄介 的場元弘	がん性疼痛における複方オキシ コドン注持続皮下注の有効性と 安全性—4年間の処方調査—	がんと化学療 法	36(10)	1683-1685	2009
秋山美紀 的場元弘 他	地域診療医師の在宅緩和ケアに 関する意識調査	Palliative Care Research	4(2)	112-122	2009
渡邊清高	知っておきたいがん情報	薬学図書館	56(1)	81-87	2011
渡邊清高	完成版 がん「患者必携」～患者 の求める情報を網羅したガイド とは～	外来看護	15	70-77	2010
渡邊清高	生活習慣改善による疾病予防— エビデンスを求めて—	成人病と生活習 慣病	40	1050-1055	2010
渡邊清高	医療報道の「質」を評価する新し い動き メディアドクター	JAMIC JOUR- NAL	2	20-23	2011
谷水正人, 成木勝広, 大中俊宏	病院が中心となって取り組んで いる事例 四国がんセンターが んの連携	日本医師会雑誌	139 巻・特 別号	S300-S303	2010

			(1)		
谷水正人	がん医療連携パス基盤整備に課題	Medical ASAHI	10	22-23	2010
谷水正人	5大がんの地域連携クリティカルパス開発の現状と課題	多摩消化器シンポジウム誌	25(1)	5-8	2011
辻 晃仁	クリニカルパスから始める医療連携	外来癌化学療法	1(1)	48-57	2010
辻 晃仁	大腸がんの地域連携パス	癌と化学療法	37(11)	2067-2074	2010
下村裕見子、池田俊也、武藤正樹、谷水正人	がん診療連携拠点病院等におけるがん地域連携クリニカルパス稼働調査と連携体制の課題	日本クリニカルパス学会誌	13(2)	98-104	2011
森田純子、薬師神芳洋、児島洋、恒岡菊江、藤原光子、森ひろみ、山下広恵、山口育子、藤田高子、矢野琢也、松久哲章、岡田憲三、白石猛、原雅道、松野剛、谷水正人	愛媛県がん診療連携拠点病院における外来化学療法室の現状と問題点愛媛県がん診療連携拠点病院・がんの集学的治療に関する分科会	癌と化学療法	38(4)	599-605	2011
Teramoto N, Tanimizu M	Validation analysis of Japanese histological classification of breast cancer using the National Summary of Hospital Cancer Registry 2007 Japan.	Cancer Sci.	102(8)	1597-601	2011
辻 晃仁	大腸癌薬物療法と抗EGFR 抗体療法	癌と化学療法.	38(6)	901-906	2011
Ishida Y, Takahashi M, Maru M Mori M et al	Physician Preferences and Knowledge Regarding the Care of Childhood Cancer Survivors in Japan: A Mailed Survey of the Japanese Society of Pediatric Oncology.	Jap. J. Clin.Oncol.	In press		2012
Deshpande GA, Soejima K, Ishida Y et al	global template for reforming residency without workhours restrictions: Decrease caseloads,increase education.Findings of the Japan Resident Workload Study Group.	Medical Teacher	In Press		2012
Sato I, Higuchi A, Yanagisawa T, Ishida Y, et al	Factors influencing self- and parent-reporting health related quality of life in children with brain tumors.	Quality of Life Research	In Press		2012
Asami K,Ishida Y, Sakamoto N	Job discrimination against childhood cancer survivors in Japan—across-sectional survey.	Pediatr. Int.	In Press		2012
Ishida Y, Ohde S, Takahashi O, et al	Factors Affecting Health Care Utilization for Children in Japan	Pediatrics	129	e113-e119	2012
.Ishida Y, Honda M, Kamibeppu K, et al	Social outcomes and quality of life of childhood cancer survivors in Japan: a cross-sectional study on marriage, education, employment and health-related QOL (SF-36).	International Journalof Hematology	93(5)	633-644	2011
Ishida Y,Ozono S, Maeda N, et al	Medical Visits of Childhood Cancer Survivors in Japan: A Cross-sectional Survey.	Pediatr. Int.	53(3)	291-299	2011
Tsuji N, Kakee N, Ishida Y, et al	Validation of the Japanese version of the Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) Cancer Module.	Health and quality of life outcomes	9	22	2011
Hasegawa D, Manabe	The utility of performing the initial	Pediatr. Blood	58(1)	23-30	2011



A, Ohara A, Kikuchi A, Koh K, Kiyokawa N, <u>Ishida Y</u> et al	lumbar puncture on day 8 in remission induction therapy for childhood acute lymphoblastic leukemia: TCCSG L99-15 study.	Cancer			
Ohde S, Hayashi A, Takahasi O, Yamakawa S, Nakamura M, Osawa A, <u>Ishida Y</u> et al	A 2-week prognostic prediction model for terminal cancer patients in a palliative care unit at a Japanese general hospital.	Palliativemedicine	25(2)	170-176	2011
Tokuda Y, Goto E, Otaki J, Omata F, Shapiro M, Soejima K, <u>Ishida Y</u> et al	The New Japanese Postgraduate Medical Education and Quality of Emergency Medical Care	J. Emerg. Med.		0736-4679 (Electronic)	2011
Watanabe S, Azami Y, Ozawa M, Kamiya T, Hasegawa D, Ogawa C, <u>Ishida Y</u> et al	Intellectual development after treatment in children with acute leukemia and brain tumor.	Pediatrics International	53(5)	694-700	2011
T Asano, K Kogawa, A Morimoto, <u>Y Ishida</u> et al	Hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic stem cell transplantation in children: A nationwide survey in Japan.	Pediatr. Blood Cancer		(Epub)	2011
石田也寸志, 渡辺静, 小澤美和, 他	小児がん経験者の晩期合併症の予測は可能か—聖路加国際病院小児科の経験—	日本小児血液がん学会雑誌	In Press		2012
石田也寸志, 本田美里, 坂本なほ子, 子他	小児がん経験者の横断的調査研究における自由記載欄の解析	日本小児科学会雑誌	In Press		2012
石田也寸志, 細谷亮太	小児がん治療後のQOL—Erice 宣言と言葉の重要性—	日本小児科学会雑誌	115(1)	126—131	2011
石田也寸志, 山口悦子, 堀浩樹, 他	小児急性リンパ芽球性白血病患者・家族のQOLアンケート調査—第1報	日本小児科学会雑誌	115(5)	918-930	2011
石田也寸志, 山口悦子, 本郷輝明, 他	小児急性リンパ芽球性白血病患者・家族のQOLアンケート調査—第2報	日本小児科学会雑誌	15(5)	931-942	2011
朝戸裕二, 鏑木孝之, 雨宮隆太	局所麻酔下胸腔鏡	日本気管食道科学会雑誌	61	467-469	
藤原隆行, 朝戸裕二, 清嶋護之, 佐藤始広, 飯嶋達生, 雨宮隆太	原発性肺癌に併発した多発性後縦隔骨髄脂肪腫の1例	肺癌	51	207-211	2011
雨宮隆太, 清嶋護之, 鏑木孝之, 朝戸裕二	所見のとらえ方と気管支鏡診断	気管支学	33	284-289	2011



腫瘍関連の接頭辞 onco- (オンコ) を本誌記事用にデザインしました。  
onco- はギリシア語の *ogkos* (massの意) に由来しています。

## 患者とともにつくる, がん情報 がん治療の“主役”をサポートするために

がん(悪性新生物)は1981年以来, わが国の死亡原因の第1位<sup>1)</sup>。

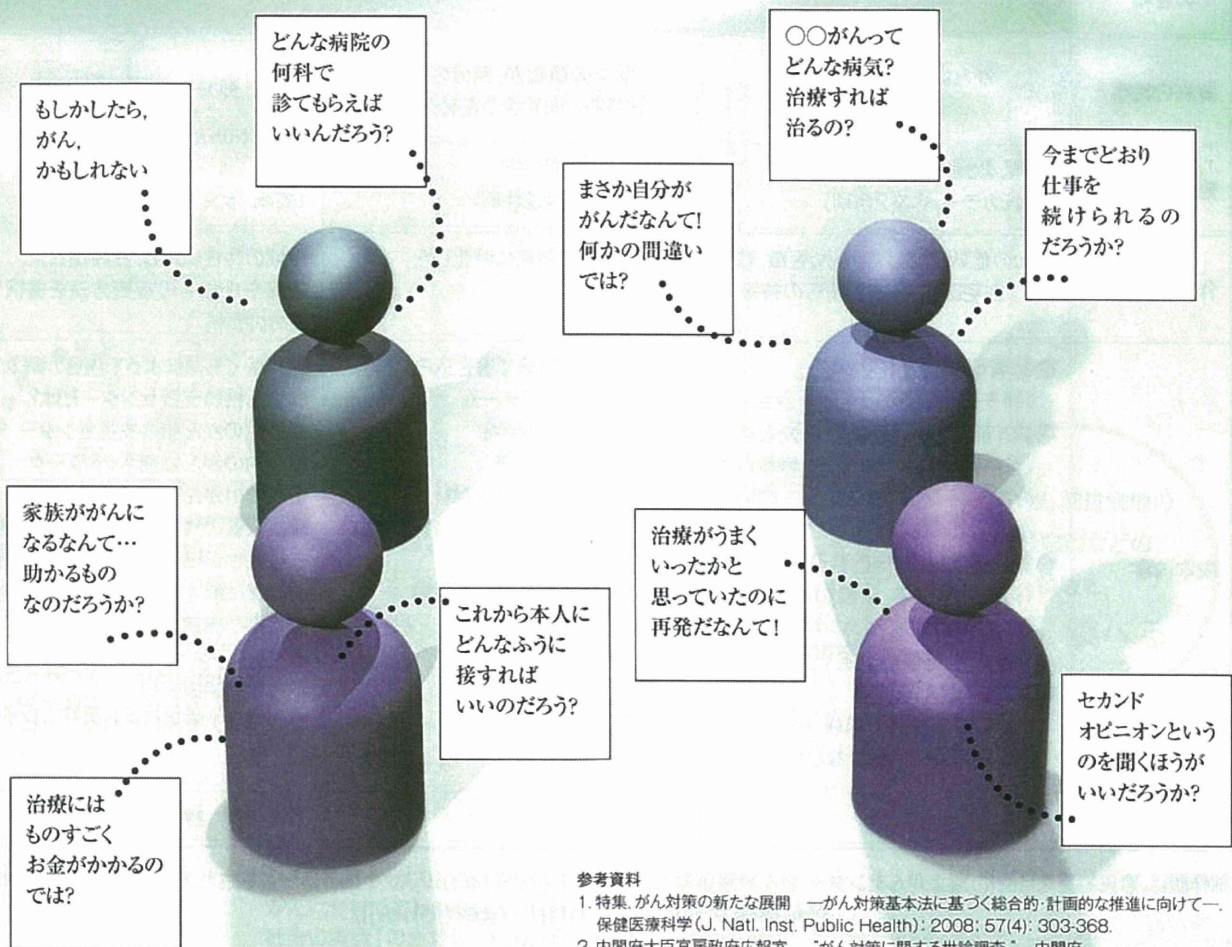
がんといえば, 薬剤師にとっては, 2005年の「がん専門薬剤師認定」開始の印象が強いが, 翌2006年の「がん対策基本法」も, その後の「がん対策推進基本計画」も, 患者の声や活動が, 成立や策定の大きな原動力となった。その意味で, がん医療をリードしているのは患者自身と言える。

一方で, 個々の患者・家族にとって, がんはやはり大きな重荷だ。2007年に内閣府が, 全国の成人男女を対象に行った世論調査(有効回収数1,767人)で, がんについての印象を訊ねたところ, 「こわくない」と答えた人は24.0%, 「こわい」とした人は65.1%だった<sup>2)</sup>。

がんの「こわさ」は, 初めて診断されたとき, 転移や再発を告げられたときなど, 状況の変化に伴う疑問や思いから生じる部分も大きい。そんなときに, 助けになるのが“情報”だ。

がん患者の治療に貢献できるのは, がん専門薬剤師ばかりではない。先ごろ試作版が作られた患者向け情報を手がかりに, 薬剤師ができる具体的なアクションを考えてみたい。

【取材・文責 - PT編集部 本島玲子】



### 参考資料

1. 特集, がん対策の新たな展開 —がん対策基本法に基づく総合的・計画的な推進に向けて—, 保健医療科学(J. Natl. Inst. Public Health): 2008; 57(4): 303-368.
2. 内閣府大臣官房政府広報室, “がん対策に関する世論調査,” 内閣府, <http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-gantaisaku/> [2009年8月18日アクセス]



# 変わる患者像 そのとき 薬剤師は？

2009年7月11日、国立がんセンター（東京都中央区）で、平成21年度第1回市民向けがん情報講演会が開催された。そこで披露されたのが、『がんになったら手にとるガイド』、『わたしの療養手帳』、『地域の療養情報』の3点から成る『患者必携』だ（下表、右図）。

これは、**がん対策推進協議会**（p.18）の提案により、約1年をかけて、作成されたもの。同協議会には、がんの患者・家族・遺族を代表する者が委員として参加し、『患者必携』の作成過程にも、60名の患者・市民パネルが関わっている。

今後、試作版の試験配布、意見募集等を経て、2010年以降の完成版作成に向け、最終形が検討される予定だ。

『患者必携』が、これまでの資料と決定的に違うのは、  
本当の意味で、患者自身が治療の主役になるための道具として、  
病気や療養についてわからないことがあったときや、受診するときなど、  
様々な場面で徹底的に“使う”ことを意識している点だ。  
薬剤師も、患者像の変化を認識して、具体的なアクションでサポートしたい！

『患者必携』（意見募集のための試作版）の概要

資料名とその性格	がんになったら手にとるガイド	わたしの療養手帳	地域の療養情報
資料の性格	がんと向き合うための横断的情報	個々の患者が、自分の体や気持ちと向き合うための道具	地域に特化した情報
形態	A4判, 254ページ (表紙カラー, 本文2色刷)	A5判2穴, 70ページ (表紙, 本文とも2色刷)	A5判, 24~28ページ (表紙, 本文とも2色刷)
作成目的	がんの症状に応じた, がん医療, 緩和ケア, 在宅医療, 介護支援等の情報	自分の記録や情報に特化した“参加型手帳”	地域の特性に応じ, 住み慣れた家庭や地域での療養方法を選択するための情報
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●患者必携ガイドマップ (冊子の使い方のナビゲーション)</li> <li>●第1部 “がん”と言われたとき (診断結果の受け止め方, 情報収集の方法, 相談支援センターの紹介など)</li> <li>●第2部 がんに向き合う (治療法を知る, 治療の準備, 医療者との関わり方, セカンド・オピニオンの活用, 経済的負担や支援など)</li> <li>●第3部 がんを知る (16のがん種別の情報, トピックス, がん関連の冊子紹介など)</li> </ul>	下記の内容を自分で書き込み, 整理するためのフォーム <ul style="list-style-type: none"> <li>●これから受ける治療</li> <li>●治療と体調の記録</li> <li>●退院後の生活で気を付けること</li> <li>●受診時に伝えたいこと, 質問したいこと</li> <li>●担当医以外から受けた説明</li> <li>●自分が大切にしたいこと</li> <li>●年間スケジュール</li> <li>●週間スケジュール</li> <li>●薬の一覧表 など</li> </ul>	試作版でも県によって内容が異なる <ul style="list-style-type: none"> <li>●がん相談支援センターとは?</li> <li>●県内のがん相談支援センター</li> <li>●県内のがん治療ネットワーク</li> <li>●県内のがん診療連携拠点病院</li> <li>●医療費の負担軽減に関する情報</li> <li>●療養中の所得保障に関する情報</li> <li>●介護に関する相談</li> <li>●障害や難病についての相談</li> <li>●インターネットの情報サイト</li> <li>●各種の相談窓口</li> <li>●緩和ケア等受けられるサービスなど</li> </ul>
備考			茨城, 栃木, 静岡, 愛媛のみ試作

試作版は、意見募集を目的に、国立がんセンター がん対策情報センターの下記サイトにpdfファイルの形で掲載されている(2009年8月現在)  
がん情報サービス <http://ganjoho.jp>

# かんじゃひっけい どう活かす? 『患者必携』

## 患者のアクション, 薬剤師ができるアクション

まずは試作版を  
ダウンロード  
してみよう!

がんと向き合う患者に  
必要な情報を知るために ▶ p.11



薬剤師も  
読んでみよう!

何が期待されているかを  
知るために ▶ p.12  
患者の気持ちを  
知るために ▶ p.13

患者が、  
治療について  
聞いたり調べたりした  
事柄を  
書き留める、  
整理する

患者必携(試作版)で  
患者に期待されている使われかた

患者が、自分らしい  
病気との向き合いかたを  
考えていくために、  
読む、調べる



差し込んで  
利用しても可



具体的な使いかたをも  
考えてみよう!

どんどん使って、より良いものに  
していくために ▶ p.16, 17

薬剤師も  
情報源になろう!

がん情報の所在をガイドし、  
補えるように ▶ p.14, 15

患者が、居住地域の  
相談窓口などの  
情報を、  
知る、調べる

薬剤師も  
ともに目指そう!

「がんを知り、がんと向き合い、  
がんに負けることのない  
社会の実現」のために ▶ p.18



『患者必携』(試作版)はどのような内容で構成され、何を目的に作られたのか、  
 『患者必携』(試作版)について、薬剤師が実際に見て、知っておいてほしいことは何か、  
 薬剤師が情報源に、地域の薬局が情報ステーションになるにはどうすればよいのか、  
 企画・作成に携わった、

# 国立がんセンター がん対策情報センター の方々に伺った。

文中、「患者必携」の各資料中のページは、  
 [ガイドp.90-101]、[療養手帳p.62-68]のように表示した。



写真右から

- 若尾文彦氏 国立がんセンター がん対策情報センター  
センター長補佐、情報提供・診療支援グループ長
- 渡邊清高氏 国立がんセンター がん対策情報センター  
がん情報・統計部、がん医療情報サービス室長
- 八巻知香子氏 国立がんセンター がん対策情報センター  
がん情報・統計部

## 『患者必携』の企画理念

### 企画・作成するときを目指したもの

- すべてのがん患者と家族が手にすることにより、  
がん難民ゼロを目指す
- がん患者に必要な情報を網羅することで  
心と身体の不安を解消する
- 多くの国民の、がんに関する意識を向上させ、  
がんに向き合う社会を目指す

## 『患者必携』を使ってほしい場面 がんの診断以降、継続的に

- がんの診断が伝えられた直後  
『がんになったら手にとるガイド』を参考に、  
自分の気持ちと向き合い、  
今後の治療に備えて基本的な情報を得る
- がんの治療中  
『わたしの療養手帳』、『地域の療養情報』を携帯し、  
疑問点の解決、医療者との意思疎通に用いる
- がんの診断以前の啓発や予防の情報、  
初発でない患者のための情報は今後の課題

## 『患者必携』の構成

### 基本情報+個別の情報+地域情報

- 『がんになったら手にとるガイド』  
がんと向き合うための横断的な基本情報
- 『わたしの療養手帳』  
個々の患者が自分の身体や気持ちと向き合うための  
情報
- 『地域の療養情報』  
地域に特化した情報 ※作成するかどうかも含め検討中

## 『患者必携』の位置づけ

### 使用・普及で期待している効果

- 患者と医療者の対話を促す取り組みが広がる  
治療や療養について、信頼でき、役に立つ情報が広く  
伝わる
- がん医療の体制整備につながる  
がんに関する普及啓発や地域発の情報提供モデル、  
医療・緩和ケア・在宅・介護との連携などを通し、  
がん患者が自分らしい生き方ができるような  
支援の輪が広がる
- 患者目線のがん対策の取り組みが行われる  
取り組みを可視化し、先進的な事例を知ることが  
できる

まずは試作版を  
ダウンロード  
してみよう！

## がんと向き合う患者に 必要な情報を知るために

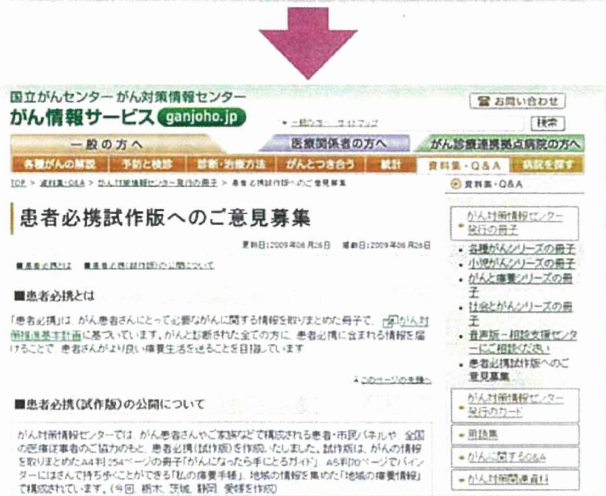
『患者必携』は、インターネットが利用できない患者でも得られる情報に差がないよう、冊子として作成され、がん診療連携拠点病院を中心に、患者に配布される予定だが、**試作版は、意見募集を目的に** pdfファイルの形で、国立がんセンターがん対策情報センターが提供する『がん情報サービス』のサイトに掲載されている。薬剤師としても、がん患者にどのような情報が配布されるのかを知り、薬に関わる部分を中心に、専門家としての意見、アイデアを出したい。



### ●『がん情報サービス』のトップページ

(<http://ganjoho.jp>)にアクセス  
『一般の方へ』のページの、該当部分を  
クリックし、『患者必携』(試作版)が  
掲載されているページへ

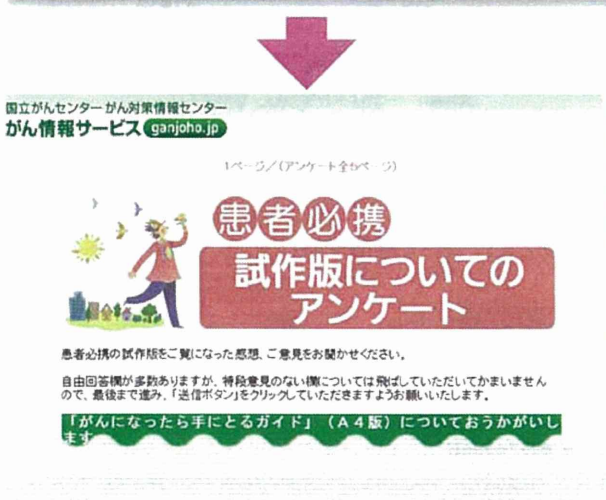
いずれかをクリック



### ●『患者必携試作版へのご意見募集』

のページへ

『患者必携』の説明、公開の趣旨が書かれており、  
『がんになったら手にとるガイド』、  
『わたしの療養手帳』、『地域の療養情報』の  
全体版あるいはパートごとのpdfファイルが  
ダウンロードできるようになっている



### ●アンケートは5ページ(5つの画面)から成り、

『がんになったら手にとるガイド』、  
『わたしの療養手帳』、『地域の療養情報』に関する  
意見、これらの資料の配布方法、  
回答者の属性(必須項目は性、年齢、立場のみ)と  
意見、提案について、  
選択式と自由記載で回答する形になっている  
(今回の試作版に対する意見募集期間は、  
2009年秋頃まで)

[2009年8月24日アクセス]



# 読んでみよう!

## 薬や薬剤師に関わる部分

### 何が期待されているかを知るために

『患者必携』の『がんになったら手にとるガイド』では、がん患者が治療・療養を行っていく際の様々な場面でサポートするメンバーや施設として、薬剤師や薬局が挙げられている(下図)。「薬物療法(抗がん剤治療)のこゝを知る」【ガイドp.90-101】、「緩和ケアについて理解する」【ガイドp.104-105】という項目もある。また、『わたしの療養手帳』には、「週間スケジュール(薬の服用記録を含む)」や「薬の一覧表」【療養手帳p.62-68】の欄もある。

がん医療で薬剤師に期待されている役割を再確認したうえで、具体的なアドバイスやアイデアをぜひ出したい!

まず、がんの診療を行っている病院の薬剤師は、病院の体制にもよるとは思いますが、情報提供に積極的に関わってほしいと思います。



がん診療連携拠点病院(p.18)には、相談支援センター(p.18)の設置が義務づけられています。相談支援センターの相談員の約5割が看護師、約4割がソーシャルワーカーですが、専門的な項目については適切な人に答えてもらうため、質問を振り分けています。薬については、やはり薬剤師の協力が必要です。

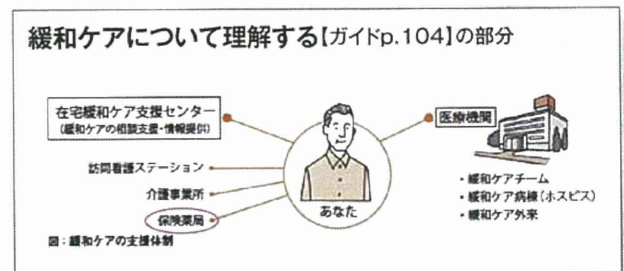
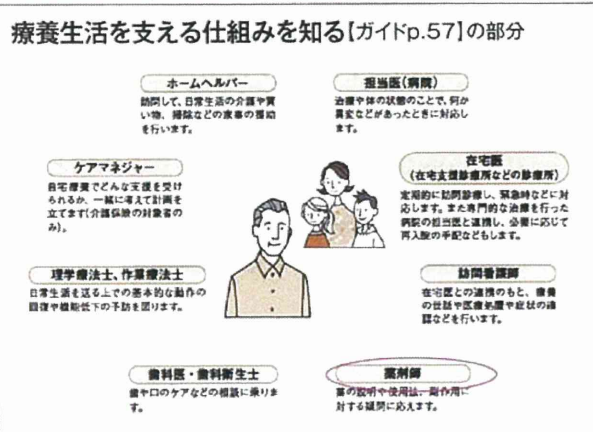
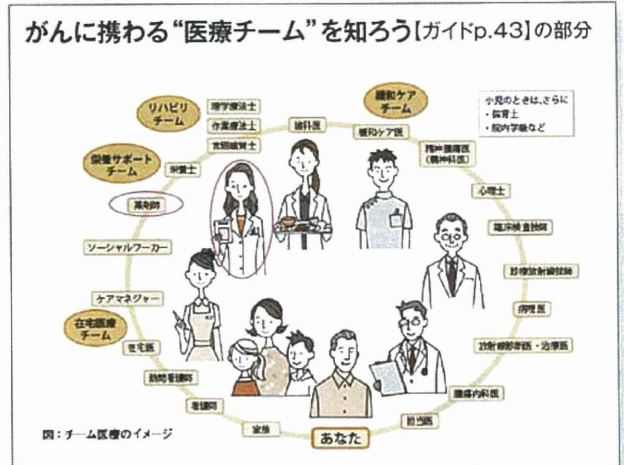
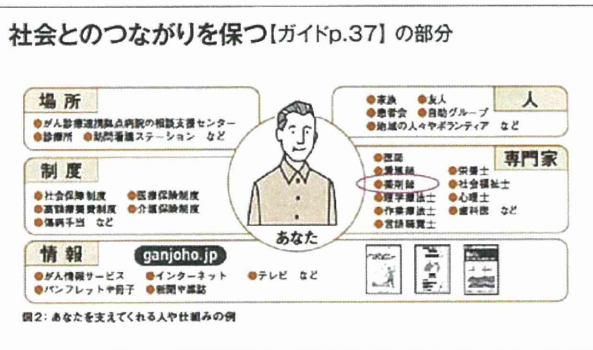
自分の治療について、病院で主治医に聞くしかないと思っている人は多いと思いますが、がん医療において薬剤師も重要なプレーヤーです。



薬剤の種類、あるいは患者の状態や性格等によって、ある程度ゆるやかでもよいものと、厳密な管理が必要なものがあるでしょう。

薬に関わる患者への対応について、薬剤師は色々なノウハウをお持ちだと思いますので、『患者必携』を使ってみたいうえでのご意見をいただきたいですし、既に行っていることについてのご提案も歓迎します。

## 『患者必携』では、様々な側面での薬剤師の役割に触れられています





# 読んでみよう!

## 患者必携ガイドマップ、 『ガイド』の第1・2部

## 患者の気持ちを知るために

薬剤師は、「薬の専門家」ではあるが、『患者必携』の関連部分を読んで、多くの患者が抱きがちな不安や疑問を知っておくと、薬だけに焦点を当てた説明より、一歩踏み込んだ服薬指導ができるのではないだろうか。

例えば、『わたしの療養手帳』には、抗がん剤、医療用麻酔薬など、特に使用方法に注意する必要がある薬を書き出す欄がある(下図・右)。ここで、患者の立場に立ち、薬に関する説明そのものの難しさに加え、心理的な状態によっては、非常に理解しにくいことを想定して、患者がこの欄に記入するのを助ける、ということもひとつのサポート方法だろう。

日常業務でがん患者に接する機会が少ない場合は、特に、『がんになったら手にとるガイド』の第1・2部や、『がん体験者の皆さんの手記』を読んでみてください。



また、『患者必携ガイドマップ』(下図)では、がんの診断から治療、療養生活で、困ったこと、不安に感じることが出てきたとき、必要な情報にたどりつくための方法を、場合分けして記載しています。こうした患者の気持ちを理解したうえで接していただくと、薬に関する情報提供や相談も、より活きてくるのではないかと思います。

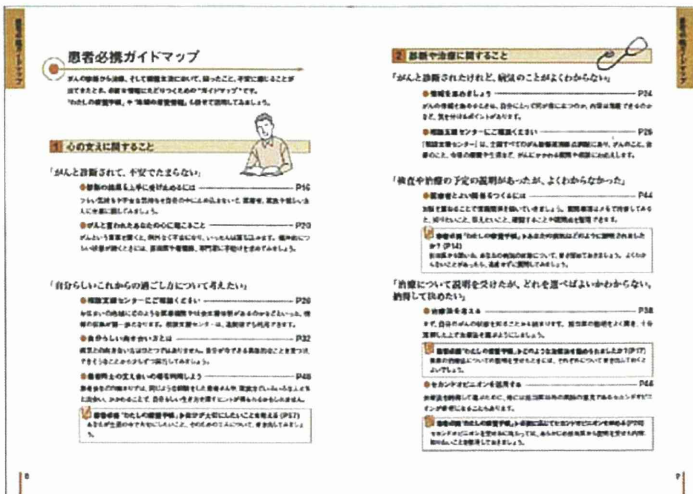
入院中は、様々な職種の医療関係者にケアされていても、退院したとたん、助けてもらえる人がいないという状況に直面し、とまどうことが多いと聞いています。



そんなときに、『患者必携』を基盤に、患者が医療者に対して、不安や疑問を率直に投げかけることで、よりよい関係を築いていってほしいと願っています。

## 自分自身のこれからの対する不安、診断や治療に関する疑問、生活や療養に関する問題、など、がんの診断を伝えられたあとには 様々な感情が渦巻いています

患者の不安、疑問などから、情報源が引ける  
患者必携ガイドマップ[ガイドp.8-13]の部分



《薬の一覧表》

【療養手帳p.67-68】の部分

薬の一覧表	
薬名	
用量	
用法	
副作用	
注意事項	
その他	



# 薬剤師も 情報源に なろう！

## がん情報の所在をガイドし、補えるように

『患者必携』は、2007年5月のがん対策推進協議会（p.18）で検討され、2007年6月のがん対策推進基本計画（p.18）の分野別施策（「がん医療に関する相談支援及び情報提供」の項目）で、次のように定められた。

インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等ががん診療を行っている医療機関に提供していく。

薬剤師もこの趣旨を理解して、がん情報の所在をガイドし、必要に応じて、薬の側面から見た情報、地域の情報を補えるようにしたい！

『患者必携』は、医療者の思いだけで作ったものではありません。  
患者・市民パネルと、全国の専門家の協力を得て、企画・作成したものです（下図）。



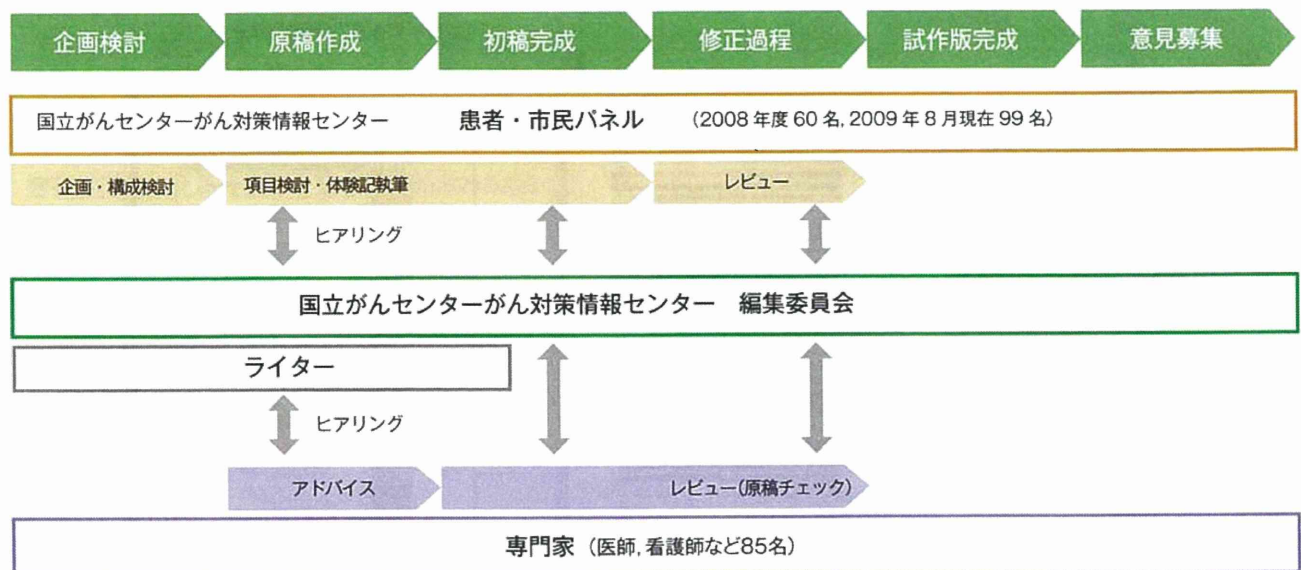
国立がんセンターがん対策情報センターは、がん対策推進アクションプラン2005（p.18）に基づき、わが国のがん対策を総合的・計画的に推し進めるため、2006年10月に設置されました。当センターの運営に必要な事項を協議する運営評議会は、国立がんセンター総長が委嘱する約10名の委員（任期2年）で構成されていますが、設置規定により、その中には「がん患者及びその家族を代表する者」が必ず含まれます。

また、我々の活動を支援していただくために、患者・市民パネルと各種専門家のパネル群を設置しています。『患者必携』（試作版）の企画・作成過程でも、パネルの方々にご協力いただきました。

患者・市民パネルには、企画の段階で項目立てに意見を頂戴し、その後も、できあがった原稿案を各項目、数名ずつのかたに読んでいただきました。また、体験記の部分も、患者・市民パネルの協力でできたものです。さらに、2009年2月には、集まれる人だけ集まって、対面で『わたしの療養手帳』へのご意見もいただきました。

医療者が患者向けに文章を書くとき、つい「上から目線」になりがちですが、そうした点も修正しました。また、どのような状態なら受診すべきか、など本人の判断を助ける書き方にするよう、心がけました。

### 『患者必携』（試作版）の企画・作成過程





# 国立がんセンターがん対策情報センター発行の冊子一覧

(2009年8月現在)

がんについて、信頼できる情報が、わかりやすく紹介されています(各20~24ページ程度の小冊子)

## 入手方法-1

全国の、がん診療連携拠点病院の相談支援センターで冊子(印刷物)を入手(無料配布)

全国のがん診療連携拠点病院は、  
がん情報サービス携帯版でも  
参照できる(右の二次元コード利用)



## 入手方法-2

がん情報サービスのサイトからダウンロード

がん情報サービス <http://ganjoho.jp>

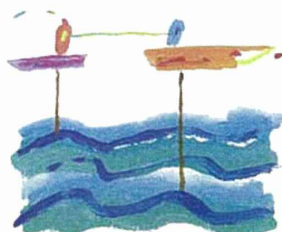
▼  
トップページ右側 「がんに関する冊子」の項目をクリック

▼  
必要な冊子を選んでダウンロード

各種がん 101 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 胃がん

受診から診断、治療、経過観察への流れ



患者さんとご家族の明日のために

## 各種がんシリーズ

101	胃がん	131	悪性リンパ腫
102	食道がん	132	多発性骨髄腫
103	大腸がん	133	慢性骨髄性白血病
104	肝細胞がん	141	子宮頸がん
105	膵臓がん	142	卵巣がん
106	胆のうがん	151	腎盂尿管がん
111	髄膜腫	152	腎細胞がん
112	聴神経鞘腫	153	前立腺がん
113	喉頭がん	154	膀胱がん
114	舌がん	161	悪性黒色腫
121	中皮腫	162	乳房外バジレット病
122	胸腺腫と胸腺がん	163	悪性線維性組織球腫
123	肺がん		

各種がん 102 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 肺がん

受診から診断、治療、経過観察への流れ

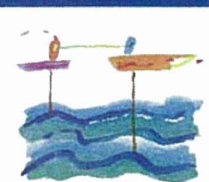


患者さんとご家族の明日のために

各種がん 104 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 肝細胞がん

受診から診断、治療、経過観察への流れ



患者さんとご家族の明日のために

各種がん 103 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 大腸がん

受診から診断、治療、経過観察への流れ



患者さんとご家族の明日のために

## 小児がんシリーズ

181	小児の悪性リンパ腫	186	小児の腎腫瘍
182	小児の横紋筋肉腫	187	小児の脳腫瘍
183	小児の肝腫瘍	188	小児の胚細胞性腫瘍
184	小児の骨肉腫	189	小児の白血病
185	小児の神経芽腫	190	小児のユーイング肉腫

## がんと療養シリーズ

202	がんと心
203	がん治療と口内炎

がんと療養 202 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### がんと心

がんと向き合う「こころのケア」



患者さんとご家族の明日のために

がんと療養 203 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### がん治療と口内炎

口内炎や口のトラブルの対処の仕方



口内炎や口のトラブルの対処の仕方

## 社会とがんシリーズ

001	相談支援センターにご相談ください
201	家族ががんになったとき

社会とがん 001 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 相談支援センターにご相談ください

がん診療連携拠点病院の相談窓口のご案内

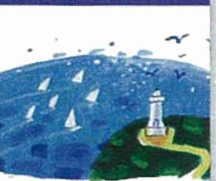


患者さんとご家族の明日のために

社会とがん 201 [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

### 家族ががんになったとき

患者さんを支える6か条



患者さんとご家族の明日のために

